

概 要

1 気象概況

- 気象庁資料からみた、平成20年の月別の気象概況は、以下のとおりである -

1月 気温は西日本と沖縄・奄美で高く、北日本で低かった。

低気圧や前線が本州南岸を短い周期で通過し、東・西日本の太平洋側では曇りや雨又は雪の日が多かった。西日本では降水量も多かったが、南岸を通る低気圧はあまり発達せず通過したため、東日本太平洋側では降水量が平年を下回った。月半ばには冬型の気圧配置が強まり、北日本と東日本を中心に寒気が南下した。しかし、日本海から北日本付近での低気圧の発達は少なく、また、東海上での発達も弱かった。このため、東日本日本海側と北日本では、降水量は少なく、特に北日本太平洋側では1946年以降第1位の少ない記録となった。

2月 日照時間は沖縄・奄美でかなり少なく、太平洋側が多かった。

上旬や下旬には、短い周期で低気圧が日本付近を通過し、天気は数日の周期で変わった。また、中旬には冬型の気圧配置が続き、ほぼ全国的に低温となったほか、北日本を中心に雪や強風に見舞われた。沖縄・奄美では上・下旬には低気圧や前線の影響で、中旬には季節風の影響で曇りや雨の日が多かった。低気圧の通過、発達にともない、上旬には、東・西日本太平洋側でも曇りや雨又は雪となったほか、中旬以降は日本海側の地方では大雪に、また太平洋側の地方も含め強風に見舞われ、特に12日から15日にかけてと、23日から24日にかけては暴風雪、高波、強風などにより被害が発生した。

3月 全国的な多照、北・東日本では顕著な高温となった。

5～6日の周期で低気圧が日本付近を通過したが、低気圧の通過後も冬型の気圧配置になる日はほとんどなく、移動性高気圧に覆われて晴れる日が多かった。低気圧の通過時には、全国的に曇りや雨又は雪となり、西日本を中心にまとまった雨となった。このため、北・東・西日本では上旬半ばから下旬半ばにかけて、気温が平年よりかなり高い日が続く、特に北・東日本の高温は顕著で、ともに1946年以降3月として第2位の高い記録となった。一方、上旬を中心に大陸からの冷たい高気圧に覆われた沖縄・奄美では気温は平年並となった。日照時間は、東風の影響を受けやすかった北日本太平洋側で少なかったほか、全国的に多く、西日本太平洋側と沖縄・奄美ではかなり多かった。降水量は、低気圧通過時に南からの暖かく湿った気流が流れ込んだ沖縄・奄美で多かった。一方、低気圧の影響が小さく、また冬型の気圧配置の影響もなかった東日本日本海側と北日本で少なかった。北日本日本海側の降水量は1946年以降3月として最も少ない記録となった。北日本の降雪の深さは1961年以降3月として最も少ない記録となった。

4月 北・東・西日本で高温、北日本では顕著な高温となった。

北日本は、日本海側を中心に高気圧におおわれ晴れの日が多く、寒気の南下もほとんどなかったため、顕著な高温・少雨となった。北日本日本海側の月降水量は4月としては1946年以降最も少なかった。東・西日本では、月半ばを中心に本州の南岸沿いを低気圧が頻りに通過したため曇りや雨の日が多かった。その後は高気圧におおわれて晴れる日が多かった。東日本太平洋側では、関東付近で発達した低気圧や動きの遅い低気圧の影響により顕著な多雨となり、月降水量が4月としては1946年以降第2位の多い記録となった。沖縄・奄美は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。

5月 北日本から西日本では気温の変動が大きかった。

上旬末から中旬と下旬後半に強い寒気が南下するなど、北日本から西日本では気温の変動が大きかった。数日の周期で低気圧が日本付近を通過し、天気は全国的に数日の周

期で変わった。低気圧が日本の南海上や本州南岸を進むことが多かったため、東日本太平洋側と西日本では多雨となった。特に関東甲信地方の月降水量は、1946年以降5月としては第3位の多い記録となった。太平洋高気圧の西への張り出しが弱く、前線が沖縄付近に持続して停滞することがなかったため、沖縄地方と奄美地方では梅雨入りが平年より2週間程度遅れ、沖縄・奄美では少雨となった。5月としては1951年以降、最多タイ記録となる4個の台風が発生した。

6月 降水量は、東日本日本海側と北日本で少なく、東日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。

前線が日本列島南岸に停滞しやすかったことや低気圧の通過により、東日本太平洋側から西日本にかけては瀬戸内海沿岸など一部を除き、降水量は平年を上回る場所が多く、特に九州地方や関東甲信地方では降水量が多かった。また、日照時間は東海地方から西日本にかけて少なく、特に西日本ではかなり少なかった。一方、前線や低気圧の影響が小さかった東日本日本海側と北日本で降水量が少なかった。前線は日本列島の南岸に停滞することが多かったが、東・西日本では寒気の影響は小さく、また、北日本では高気圧に覆われて気温が上がるなど、月平均気温は平年並だった。沖縄・奄美では、中旬以降太平洋高気圧が強まったため、中旬の終わりに平年より早く梅雨明けとなり、月平均気温は高温となった。高気圧の強まりに伴い、梅雨前線が本州付近まで北上し、北陸地方と東北地方は平年より遅く梅雨入りとなった。中旬には梅雨前線の活動が活発となり、九州地方を中心に大雨となり、下旬には低気圧や前線の影響で、東日本太平洋側で大雨となったほか、北日本の一部でも局地的な大雨となった。また、月末には、少雨が続けていた東日本日本海側でもまとまった雨が降った。

7月 東・西日本で顕著な高温、東日本太平洋側、西日本で顕著な少雨となった。

梅雨前線は平年に比べ活動が弱く、西日本を中心に太平洋高気圧の日本付近への張り出しが強かったため、全国的に平年並から早い梅雨明けとなった。東日本、西日本、沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が多く、特に西日本の日照時間はかなり多かった。高温は東日本、西日本で顕著で特に西日本では1946年以降、7月としては3番目の高温となった。また、東日本太平洋側と西日本では、上空の寒気や湿った気流の影響で局地的な雷雨となる日はあったものの、広い範囲でまとまった雨の降る日は少なく、顕著な少雨となった。西日本太平洋側では1946年以降7月としては最も少なく、東日本太平洋側では2番目に少なかった。沖縄・奄美は台風第8号の影響で先島諸島を中心に雨が降ったものの、月降水量は平年を下回った。北日本は、上旬は北海道の東の高気圧が西に張り出し、気温がかなり高かったが、中旬以降は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、顕著な高温はおさまった。なお、27日から29日にかけては、中国、近畿、北陸地方を中心に、上空の寒気と湿った気流の影響で大気の状態が不安定となり、所々で局地的な大雨となった。河川の洪水や急な増水、落雷や突風などにより各地で被害が発生した。

8月 各地で局地的な大雨、北日本から西日本では気温の変動が大きかった。

月の前半は全国的に高気圧に覆われて、晴れて暑い日が多かったが、下層には湿った気流が、上空には寒気が入り、大気の状態が不安定となって、局地的に雷を伴う大雨がたびたび発生した。月の後半は、北日本から西日本では前線や低気圧の影響で、曇りや雨の日が多く、中旬は日本海側、下旬は太平洋側中心に、ところどころで大雨となった。大雨により、各地で浸水害や土砂災害、停電や交通障害等が発生した。東北地方の月降水量は、中旬以降の多雨により、1946年以降、8月としては1998年に次いで、2番目に多かった。また、月の後半には日本付近に寒気が南下し、北日本中心に顕著な低温となった。沖縄・奄美では、一時湿った気流により、曇りや雨の日があったものの、太平洋高気圧に覆われる日が多く、台風の接近も無かったことから、晴れて暑い日が続き、顕

著な少雨となった。沖縄・奄美の月降水量は、1946年以降、8月としては1993年に次いで2番目に少なかった。

9月 全国的に気温が高く、北日本では日照時間が多く、降水量が少なかった。

全国的にほぼ月を通して気温が高かった。北日本と東日本日本海側では、高気圧に覆われて晴れることが多く、気温が高く、降水量が少なかった。また、北日本では日照時間が多く、特に北日本日本海側では、1946年以降第1位の多い記録となった。東日本太平洋側と西日本では、前半は高気圧に覆われて、晴れる日が多かったが、後半は台風、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、太平洋側を中心に広い範囲でまとまった雨となった。台風第13号が半月ばに、先島諸島に接近した後、日本列島南岸を東進した。また、台風第15号が月末に先島諸島に接近した。台風の接近に伴い、沖縄・奄美では暴風や大雨となった。特に与那国島では、台風第13号の接近に伴い、観測開始以来最大となる日降水量765.0ミリを記録した。

10月 北日本と西日本日本海側では降水量が少なく、東日本日本海側と沖縄・奄美では日照時間が多かった。

月の初めと終わりを除き寒気の南下が弱く、全国的に高温となった。北日本、東・西日本日本海側と沖縄・奄美では高気圧に覆われることが多く、低気圧や前線の影響を受けにくかった。このため、北日本と西日本日本海側では降水量が少なく、山陰地方では10月の月降水量の最小値を更新した地点もあった。また、東日本日本海側と沖縄・奄美では日照時間が多かった。一方、本州の南岸や南海上を通過した低気圧や前線の影響を受けた西日本太平洋側では、日照時間が少なかった。下旬後半には冬型の気圧配置となり、寒気と気圧の谷の影響で北・東日本の日本海側では曇りや雨の日が続いた。

11月 寒暖の変動が大きく、日本海側の各地で雪、西日本と東日本日本海側で寡照となった。

月の前半は、高気圧と低気圧が交互に日本付近を通過した。北日本では、上旬末から中旬前半にかけて高気圧に覆われ概ね晴れた。東日本以西では、上旬後半は気圧の谷や本州南海上に停滞した前線の影響で天気がぐずついたが、その後は高気圧に覆われ概ね晴れた。月の後半は、中旬半ばに気圧の谷が日本付近をゆっくり通過したあと、西日本中心に強い寒気が入り、下旬初めにかけて冬型の気圧配置となり、日本海側の各地で雪となった。西日本では広島など平年より20日前後早い初雪を観測したところがあった。その後は2～3日の比較的短い周期で低気圧が日本付近を通過し、全国的に天気が崩れた。

12月 北・東日本で顕著な高温、東日本日本海側で顕著な多照となった。

低気圧と高気圧が交互に日本付近を通過した。冬型の気圧配置となる日は少なく、全国的に天気は数日の周期で変わった。平年に比べ日本の東海上で高気圧が強く、日本海を進む低気圧や沿海州付近の気圧の谷に向かって、暖かい南風が入ったため、北・東日本では顕著な高温となった。冬型の気圧配置になる日が少なかったことから、東日本日本海側では平年に比べて晴れる日が多く、月間日照時間は、1946年の統計開始以来最も多かった。また北・東・西日本日本海側の降雪量は少なかった。低気圧がしばしば日本付近を通過したため、北日本、東日本太平洋側、西日本日本海側では多雨となった。沖縄・奄美では、大陸からの高気圧におおわれることが多く、顕著な少雨、多照となった。沖縄・奄美の月降水量は1946年の統計開始以来2番目に少なかった。

表1 梅雨入り・梅雨明けの状況（平成20年）

（梅雨入り）

地 域	本年	平年	前年
沖 縄	5月 22日頃	5月 8日頃	5月 16日頃
奄 美	5月 22日頃	5月 10日頃	5月 26日頃
九州南部	5月 28日頃	5月 29日頃	6月 1日頃
九州北部	5月 28日頃	6月 5日頃	6月 13日頃
四 国	5月 28日頃	6月 4日頃	6月 13日頃
中 国	5月 28日頃	6月 6日頃	6月 14日頃
近 畿	5月 28日頃	6月 6日頃	6月 14日頃
東 海	5月 28日頃	6月 8日頃	6月 14日頃
関東甲信	5月 29日頃	6月 8日頃	6月 22日頃
北 陸	6月 19日頃	6月 10日頃	6月 21日頃
東北南部	6月 22日頃	6月 10日頃	6月 21日頃
東北北部	6月 23日頃	6月 12日頃	6月 29日頃

（梅雨明け）

地 域	本年	平年	前年
沖 縄	6月 17日頃	6月 23日頃	6月 21日頃
奄 美	7月 2日頃	6月 28日頃	6月 28日頃
九州南部	7月 6日頃	7月 13日頃	7月 18日頃
九州北部	7月 6日頃	7月 18日頃	7月 23日頃
四 国	7月 6日頃	7月 17日頃	7月 23日頃
中 国	7月 6日頃	7月 20日頃	7月 23日頃
近 畿	7月 12日頃	7月 19日頃	7月 24日頃
東 海	7月 12日頃	7月 20日頃	7月 27日頃
関東甲信	7月 19日頃	7月 20日頃	8月 1日頃
北 陸	8月 6日頃	7月 22日頃	8月 1日頃
東北南部	8月 6日頃	7月 23日頃	8月 1日頃
東北北部	8月 5日頃	7月 27日頃	8月 11日頃

注：気象庁資料による。

2 被害概況

平成20年は、5月10日から11日にかけて、北海道の東南の海上にある高気圧から冷たい東よりの風（やませ）が吹き込んだ影響により11日及び12日に青森県で降霜となり、りんご等に結実不良等による被害が発生し、13億円の農作物被害が発生した。

なお、青森県では、上記被害を含め5月、6月及び9月と複数回にわたる降霜、降ひょうにより、りんごを中心に総額17億円の農作物被害と傷果等品質低下が発生した（平成20年10月末現在の損失見込金額約82億円）。

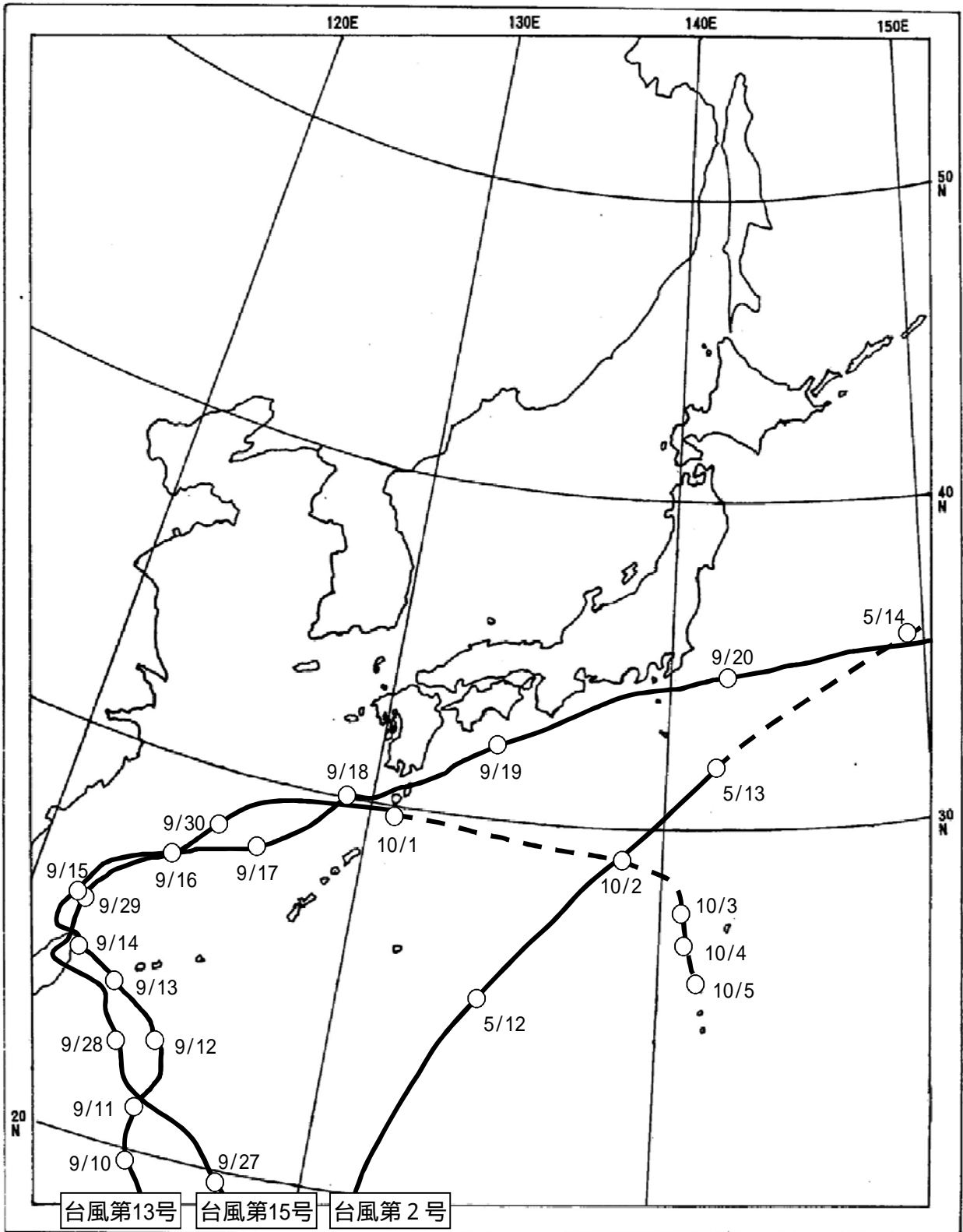
また、8月26日に前線を伴った低気圧が東シナ海を東に進み九州南部に接近したことに伴い、27日にかけて西日本の太平洋側を中心に南から暖かく湿った空気が流れ込み大雨となった。また、この低気圧が日本の南海上に進んだ8月28日から31日にかけては、本州付近に停滞した前線に向かって南から非常に湿った空気の流れ込みが強まり、大気が不安定になって、東北、関東、東海及び中国地方などで記録的な豪雨となった（平成20年8月末豪雨）。このため、東北、関東、東海及び中国地方で水害及びひょう害が発生した。

一方、9月半ばに台風第13号が先島諸島に接近した後、日本列島南岸を東進、また、同月末に台風第15号が先島諸島に接近したが、一年を通じて本土に上陸した台風はなかった。

表2 平成20年に発生した主要災害種類別被害概要（総数）

災害種類名	被害発生時期	被害面積 ha	被害見込金額 億円	主な被害農作物	主な被害地域
5月11日から 12日の降霜	5月11日～ 12日	2 660	13	りんご	青森県

3 平成20年に日本列島に上陸・接近した台風経路図



- 注： 1 経路上の 印は傍らに示した日の午前9時の位置を示す。
 2 経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。
 3 気象庁資料から作成した。